

水害避難行動タイムライン作成指針 (素案)

平成30年●月

京 都 府

目次

はじめに	タイムラインの必要性	1
第1章	タイムライン作成の流れ	2
第2章	タイムライン案の作成	2
	(1) タイムライン作成のひな型選択	3
	(2) ひな型(洪水①) 洪水予報河川：あり	4
	ひな型(洪水②) 水位周知河川：あり	5
	ひな型(洪水③) 洪水予報河川または水位周知河川：なし	6
	ひな型(土砂災害) 土砂災害警戒区域：あり	7
	(6) タイムラインの作成	8
第3章	タイムライン作成・活用のために必要な取組	11
	(1) 避難先の確認	11
	(2) 情報の収集先の確認	11
	(3) 対応の手順の検討	12
	(4) 関係機関等との連携	13
第4章	タイムライン導入後の取組	14
	(1) タイムラインを活用した訓練	14
	(2) タイムラインの運用を踏まえた見直し	14

はじめに タイムラインの必要性

<近年の豪雨の特徴と住民の備え>

近年、豪雨が増加傾向にあり、全国的にも浸水害・土砂災害が発生しています。これらの災害では、避難を促す情報が届いていたものの、避難行動が取られず被災したと思われる事例が報告されています。

災害発生のおそれが高まった際には、市町村から、「避難準備・高齢者等避難開始」、「避難勧告」、「避難指示（緊急）」といった避難情報が発令されます。住民の方は「自らの命は自らが守る」という意識を持ち、避難情報が発令された場合はもちろん、発令される前であっても行政等が出す様々な情報に十分留意し、自らの判断で自発的に避難することが期待されています。また、地域にどのような危険があるか、どのような時にどのような行動をとるべきか等について、住民一人ひとりが理解しておくことが重要です。

<タイムラインの作成と活用>

タイムラインとは、

- ・「いつ」「誰が」「何を」するのかを定めておく計画です。
- ・「いつ」を決めることで、迷う時間を減らし、見通しを持って、速やかな行動を行うことができます。
- ・「誰が」「何を」するかを1枚にまとめることで、多くの関係者が協力して行動することができます。

災害発生のおそれが高まったとき、住民の方が自らの判断で的確に避難するためには、あらかじめ自主防災組織が「タイムライン」を作成しておくことが効果的です。また、タイムラインを作成する際に行う、地域でのワークショップ等を通じて、地域の住民同士の絆を深めることができます。

自主防災組織において、この指針を参考として、タイムラインを作成していただければと思います。

※ 自治会や消防団等が主体となってタイムラインを作成することも可能です。

第1章 タイムライン作成の流れ

○ 京都府や市町村等と協働し、下記の流れでタイムラインを作成します。

① 地域における防災研修・ワークショップ

自主防災組織、消防団、自治会の役員や地域の住民等が集まり、防災研修・ワークショップを開催します。

＜防災研修・ワークショップの内容例＞

- ・ 災害発生のメカニズム、注意報・警報等の基礎知識
- ・ 「京都府マルチハザード情報提供システム」を活用した洪水浸水想定区域、土砂災害警戒区域等の点検
- ・ きょうと危機管理WEBを活用した災害時の情報の入手方法
- ・ 過去の災害時の状況や被害のふりかえり
- ・ 避難の際の危険箇所の把握（まち歩きを行うことも有効です）

② タイムラインの作成

行政・住民が協働して、防災研修やワークショップの内容をもとに、的確な住民避難のために地域や住民自身で行うべき行動を時間軸で整理し、タイムラインを作成します。

※ 第2章のひな型を活用

③ 訓練・検証

タイムラインを活用した訓練を行い、内容の検証を行って、必要に応じて修正します。また、大雨等によりタイムラインを運用した際には、対応のふり返しを行い、必要に応じて修正を行います。

＜参考＞

「京都府マルチハザード情報提供システム」

- ・ 洪水浸水想定区域、雨水出水（内水氾濫）浸水実績区域、土砂災害警戒区域、指定緊急避難場所・指定避難所の位置等を確認することが出来ます。

※ URL : <http://multi-hazard-map.pref.kyoto.jp/top/top.asp>

第2章 タイムライン案の作成

(1) タイムライン作成のひな型選択

タイムラインを作成しようとするエリアに関して、洪水浸水・土砂災害のそれぞれについて、ひな型を選択して下さい。

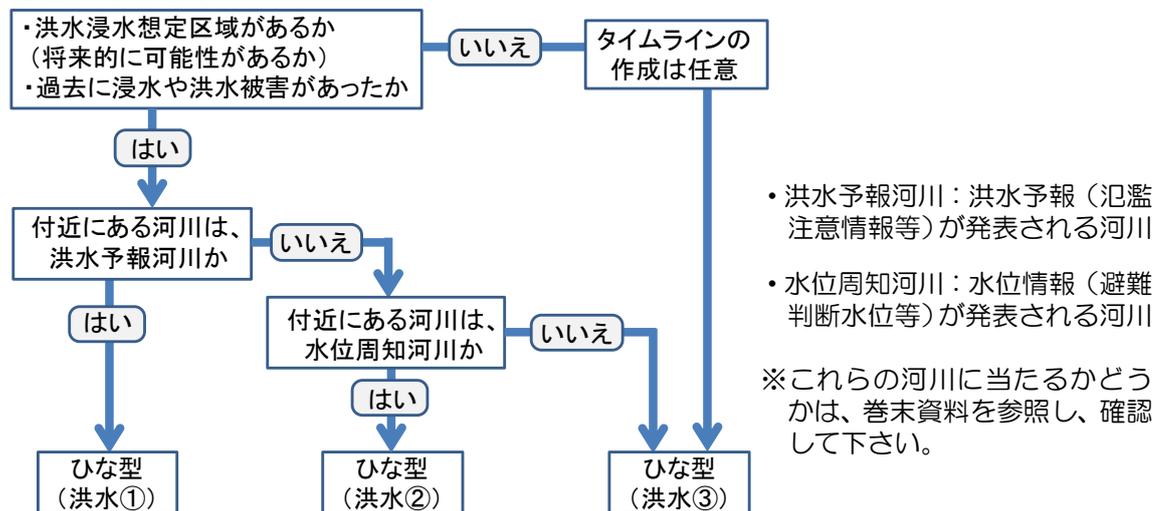
<洪水浸水>

- ・洪水浸水想定区域があるか
→ 京都府マルチハザード情報提供システムを活用して調べる
- ・過去に洪水被害を受けたことがあるか
→ 地域の記録を調べたり、地域に詳しい住民の方に聞いてみる

を調べ、いずれかに該当する場合は、タイムラインを作成しましょう。

なお、どちらにも該当しなくても、将来的に洪水浸水が起こる可能性がある場合の備えとして、タイムラインを作成することも有効です。

次に、付近にある河川の種類（洪水予報河川または水位周知河川）から、ひな型を選択します。

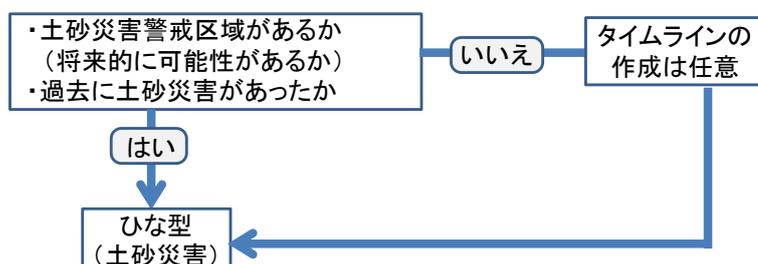


<土砂災害>

- ・土砂災害警戒区域があるか
→ 京都府マルチハザード情報提供システムを活用して調べる
- ・過去に土砂災害が発生したことがあるか
→ 地域の記録を調べたり、地域に詳しい住民の方に聞いてみる

を調べ、いずれかに該当する場合、「ひな型（土砂災害）」を使って、タイムラインを作成しましょう。

なお、どちらにも該当しなくても、将来的に土砂災害が起こる可能性がある場合の備えとして、タイムラインを作成することも有効です。



(2) ひな型 (洪水①) 洪水予報河川：あり

〇〇地区水害避難行動タイムライン				ひな型 (洪水①)
気象・水象情報	市町村の動き	自主防災組織(会長等役員)の動き	住民・要配慮者の動き	
大雨注意報 洪水注意報				
大雨警報	<ul style="list-style-type: none"> 大雨や河川の状況確認開始 手段【ハザードマップ、マルチハザード情報提供システム】 雨量【〇〇観測所】、水位【〇〇観測所】(〇〇川) 避難所・避難経路の確認 警戒体制の立ち上げ、タイムライン・緊急連絡網の確認 市役所・消防団等との情報共有、対応の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 大雨や河川の状況確認開始 手段【テレビ、ラジオ、デジタル放送、きょうと危機管理WEB】 雨量【〇〇観測所】、水位【〇〇観測所】(〇〇川) 災害・避難カード、避難経路の確認 防災グッズ(避難時持ち出し品)の準備 自宅の点検 		
洪水警報			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">ポイント1</div>	
洪水予報 (氾濫注意情報) < 氾濫注意水位 >	(自主避難所の開設)	連絡網による要配慮者への注意喚起、避難の呼びかけ	要配慮者の自主避難 又は 避難の準備 (要配慮者) 避難先【〇〇小学校】	
洪水予報 (氾濫警戒情報) < 避難判断水位 >	指定緊急避難場所の開設			
洪水予報 (氾濫警戒情報) < 避難判断水位 >	避難準備・高齢者等避難開始の発令	連絡網による避難準備・高齢者等避難開始の連絡、避難の呼びかけ	避難準備・高齢者等避難開始の受信	
<div style="border: 1px dashed red; padding: 5px;">ポイント2</div>			要配慮者の避難開始 避難先【〇〇小学校】	
<div style="border: 1px dashed red; padding: 5px;">ポイント2</div>			避難の準備 (要配慮者以外)	
<div style="border: 1px dashed red; padding: 5px;">ポイント2</div>			〇〇地点で浸水が開始したことを確認し、会長に報告	
<div style="border: 1px dashed red; padding: 5px;">ポイント2</div>			避難開始 避難先【〇〇小学校】	
<div style="border: 1px dashed red; padding: 5px;">ポイント2</div>				
<div style="border: 1px dashed red; padding: 5px;">ポイント2</div>				
<div style="border: 1px dashed red; padding: 5px;">ポイント2</div>				
洪水予報 (氾濫危険情報) < 氾濫危険水位 >	避難勧告の発令	連絡網による避難勧告の連絡、避難の呼びかけ	避難勧告の受信	
			避難開始 (要配慮者以外) 避難先【〇〇小学校】	
			避難完了	
洪水予報 (氾濫発生情報)	避難指示 (緊急) の発令	連絡網による避難指示 (緊急) の連絡	最終的な危険回避行動	
大雨特別警報				

< スイッチの例 >
 ◆雨量、水位
 「〇〇雨量観測所」での時間雨量50mm
 「〇〇雨量観測所」での累加雨量200mm
 「〇〇川」「〇〇観測所」の水位が〇mに到達
 「〇〇川」「〇〇河川カメラ」で溢れるおそれがあるとき
 「〇〇川」の進門が閉鎖
 ◆上記以外で発表される情報
 〇〇川の洪水警報の危険度分布が「赤」または「紫」
 土砂災害警戒情報の発表
 ◆被害の発生・異常現象
 〇〇地点で浸水開始
 〇〇地点で水がしみ出す

※ 気象・水象情報に関する発表等のタイミングについては、地域・事象によって異なります。
 ※ 夜間の場合は、指定避難場所への避難ではなく、屋内の、より高い階へ避難しましょう。
 ※ 土砂災害のタイムラインも作成する場合は、スイッチの早い方で避難を始めて下さい。

ひな型（洪水③） 洪水予報河川または水位情報河川：なし

ひな型（洪水③）

〇〇地区水害避難行動タイムライン

気象・水象情報	市町村の動き	自主防災組織（会長等役員）の動き	住民・要配慮者の動き
大雨注意報 洪水注意報			
大雨警報 洪水警報	<ul style="list-style-type: none"> 大雨や河川の状況確認開始 手段【テレビ、ラジオ、タブレット放送、きょうと危機管理WEB】 雨量【〇〇観測所】、水位【〇〇観測所】（〇〇川） 避難所・避難経路の確認 警戒体制の立ち上げ、タイムライン・緊急連絡網の確認 市役所・消防団等との情報共有、対応の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 大雨や河川の状況確認開始 手段【テレビ、ラジオ、タブレット放送、きょうと危機管理WEB】 雨量【〇〇観測所】、水位【〇〇観測所】（〇〇川） 災害・避難カード、避難経路の確認 防災グッズ（避難時持ち出し品）の準備 自宅の点検 	
	（自主避難所の開設）	<ul style="list-style-type: none"> 連絡網による要配慮者への注意喚起、避難の呼びかけ 	要配慮者の自主避難 又は 避難の準備（要配慮者） 避難先【〇〇小学校】
<スイッチ> 〇〇川の洪水警報の危険度分布が「赤」		〇〇川の洪水警報の危険度分布が「赤」になったことを確認	
時		〇〇に連絡し、指定緊急避難場所の開設を依頼	
間		連絡網により、自主避難を呼びかけ	自主避難の開始 避難先【〇〇小学校】
の	指定緊急避難場所の開設		
経	避難準備・高齢者等避難開始の発令	連絡網による避難準備・高齢者等避難開始の連絡、避難の呼びかけ	避難準備・高齢者等避難開始の受信
過		避難誘導開始	要配慮者の避難開始 避難先【〇〇小学校】 避難の準備（要配慮者以外）
<スイッチ> 〇〇川の洪水警報の危険度分布が「紫」 または土砂災害警戒情報の発令		〇〇川の洪水警報の危険度分布が「赤」になったこと、または土砂災害警戒情報の発表を確認	
	避難勧告の発令	連絡網により、避難を呼びかけ	避難開始 避難先【〇〇小学校】
		連絡網による避難勧告の連絡、避難の呼びかけ	避難勧告の受信
			要配慮者（要配慮者以外） 避難先【〇〇小学校】
			避難完了
大雨特別警報	避難指示（緊急）の発令	連絡網による避難指示（緊急）の連絡	最終的な危険回避行動

<スイッチの例>
 ◆雨量・水位
 「〇〇雨量観測所」での時間雨量50mm
 「〇〇雨量観測所」での累加雨量200mm
 「〇〇川」「〇〇観測所」の水位が〇mに到達
 「〇〇川」「〇〇河川カメラ」で溢れるおそれがあるとき
 「〇〇川」の樋門が閉鎖
 ◆上記以外で発表される情報
 〇〇川の洪水警報の危険度分布が「赤」または「紫」
 土砂災害警戒情報の発表
 ◆被害の発生・異常現象
 〇〇地点で濁水開始
 〇〇地点で水がしみ出す

※ 気象・水象情報に関する発表等のタイミングについては、地域・事象によって異なります。
 ※ 夜間の場合は、指定避難場所への避難ではなく、屋内の、より高い階へ避難しましょう。
 ※ 土砂災害のタイムラインも作成する場合は、スイッチの早い方で避難を始めて下さい。

ひな型（土砂災害） 土砂災害警戒区域：あり

ひな型（土砂災害）

〇〇地区水害避難行動タイムライン

気象・水象情報	市町村の動き	自主防災組織（会長等役員）の動き	住民・要配慮者の動き
大雨注意報 洪水注意報		自主防災組織（会長等役員）の動き	住民・要配慮者の動き
大雨警報		・大雨や河川の状況確認開始 手段【ハザードマップ、マルチハザード情報提供システム】 雨量【〇〇観測所】、水位【〇〇観測所】（〇〇川）	・大雨や河川の状況確認開始 手段【テレビ、ラジオ、データ放送、きよと危機管理WEB】 雨量【〇〇観測所】、水位【〇〇観測所】（〇〇川）
洪水警報		・避難所・避難経路の確認 ・警戒体制の立ち上げ、タイムライン・緊急連絡網の確認 ・市役所・消防団等との情報共有、対応の確認	・災害・避難カード、避難経路の確認 ・防災グッズ（避難時持ち出し品）の準備 ・自宅の点検
	(自主避難所の開設)	連絡網による要配慮者への注意喚起、避難の呼びかけ →	要配慮者の自主避難 又は 避難の準備（要配慮者） 避難先【〇〇小学校】
<スイッチ> 〇〇観測所で累加雨量200mm		累加雨量が200mmに到達したことを確認 【〇〇観測所】	
		〇〇に連絡し、〇〇地区の指定緊急避難場所の開設を依頼	
	指定緊急避難場所の開設	連絡網により、自主避難を呼びかけ →	自主避難の開始 避難先【〇〇小学校】
	避難準備・高齢者等避難開始の発令	連絡網による避難準備・高齢者等避難開始の連絡、避難の呼びかけ →	避難準備・高齢者等避難開始の受信
		避難誘導開始	要配慮者の避難開始 避難先【〇〇小学校】 避難の準備（要配慮者以外）
<スイッチ> 〇〇地点で浸水開始		連絡網により避難を呼びかけ →	〇〇地点で浸水が開始したことを確認し、会長に報告
土砂災害警戒情報	避難勧告の発令	連絡網による避難勧告の連絡、避難の呼びかけ →	避難開始 避難先【〇〇小学校】
	避難指示（緊急）の発令	連絡網による避難指示（緊急）の連絡 →	避難勧告の受信 避難開始（要配慮者以外） 避難先【〇〇小学校】 避難完了
大雨特別警報		連絡網による避難指示（緊急）の連絡 →	最終的な危険回避行動

※ 気象・水象情報に関する発表等のタイミングについては、地域・事象によって異なります。
※ 夜間の場合は、指定避難場所への避難ではなく、屋内の、より高い階へ避難しましょう。
※ 洪水浸水のタイムラインも作成する場合は、スイッチの早い方で避難を始めて下さい。

<スイッチの例>
◆雨量・水位
「〇〇雨量観測所」での時間雨量50mm
「〇〇雨量観測所」での累加雨量200mm
「〇〇川」「〇〇観測所」の水位が〇mに到達
「〇〇川」「〇〇河川カメラ」で溢れるおそれがあるとき
◆「〇〇川」の樋門が閉鎖
◆上記以外で発表される情報
〇〇川の洪水警報の危険度分布が「赤」または「紫」
◆被害の発生・異常現象
土砂災害警戒情報の発表
〇〇地点で浸水開始
〇〇地点で水がしみ出す

(6) タイムラインの作成

- ・ひな型を使って、タイムラインの作成を行います。ひな型には、標準的と考えられる例を記載しています。
- ・的確な住民避難に向け「いつ」・「何を」を行うかを明確にします。

<ひな型での各STEP・ポイントの箇所>

	気象・水象情報	市町村の動き	自主防災組織(会長等役員)の動き	住民・要配慮者の動き
大雨注意報 洪水注意報		STEP 1		STEP 2
大雨警報 洪水警報			大雨や河川の状況確認 手段【ハザードマップ、マルチハザード情報提供システム】 雨量【〇〇観測所】、水位【〇〇観測所】(〇〇川) 避難所・避難経路の確認	大雨や河川の状況確認 手段【テレビ、ラジオ、テレビ 雨量【〇〇観測所】、水位 災害・避難所・避難経路の確認
洪水予報(氾濫注意情報)<氾濫注意水位>		(自主避難所の開設)	警戒体制の立ち上げ、タイムライン・緊急連絡網の確認 市役所・消防団等との情報共有、対応の確認	ポイント1 (要配慮者)
時間経過		指定緊急避難場所の開設	連絡網による	避難準備・高齢者等避難開始の受信
洪水予報(氾濫警戒情報)<避難判断水位>		避難準備・高齢者等避難開始の発令	避難誘導開始	要配慮者(避難開始) 避難先【〇〇小学校】
<スイッチ> 〇〇地点で洪水開始			連絡網により避難を呼びかけ	〇〇地点で浸水が開始したことを確認し、会長に報告 避難開始 避難先【〇〇小学校】
洪水予報(氾濫危険情報)<氾濫危険水位>		避難勧告の発令	連絡網による避難勧告の連絡、避難の呼びかけ	避難勧告の受信 避難開始(要配慮者以外) 避難先【〇〇小学校】
洪水予報(氾濫発生情報)		避難指示(緊急)の発令	連絡網による避難指示(緊急)の連絡	避難完了 最終的な危険回避行動
大雨特別警報				

◆STEP 1：市町村の動きの確認

- ・気象・水象情報に基づき実施される、市町村の行動や情報発信を記載します。
- ・市町村防災担当課への確認が必要です。
- ※ 自主防災組織の活動や、住民の避難に関する内容を記載して下さい。

◆STEP 2：自主防災組織・住民に必要な行動の記載

- ・大雨注意報や大雨警報、指定河川洪水予報や水位情報が発表されたり、避難勧告、避難指示(緊急)といった避難情報等が発令された場合の、自主防災組織や住民等の行動(情報収集や避難の呼びかけ等)を考えましょう。
- ※ 一つ一つの行動には、時間がかかることに注意が必要です。
- ・自主防災組織の欄は“会長”、“班長”のように、さらに役割を分けて整理することも効果的です。
- ・自主防災組織だけで完結しない場合も考えられますので、地域における関係者と連携することも検討しましょう。

▶ **ポイント1 地域の情報を記入します**

- ・情報収集すべき最寄りの河川名や水位・雨量観測所名、あらかじめ決められた避難先を記入し、地域の状況を反映させます。

◆STEP3：地域での避難行動の目安の検討

- ・住民、避難の呼びかけ等の行動のきっかけとする情報や状況（スイッチ）について考えましょう。

▶ **ポイント2 避難行動の目安となる情報や状況（スイッチ）を検討します**

- ・災害が発生する危険性が高い地域特有の現象、水位・雨量等の数値など、自主的な避難行動を起こすスイッチを決めます。過去の災害で被害を受けた箇所や、大雨の際に被害を受けやすい箇所についても考えてみましょう。

<スイッチの例>

◆雨量・水位

- 「〇〇雨量観測所」での時間雨量50mm
- 「〇〇雨量観測所」での累加雨量200mm } (※1)
- 「〇〇川」「〇〇観測所」の水位が〇mに到達
- 「〇〇川」「〇〇河川カメラ」で溢れるおそれがあるとき
- 「〇〇川」の樋門が閉鎖(※2)

◆上記以外で発表される情報

- 〇〇川の洪水警報の危険度分布が「赤」または「紫」
- 土砂災害警戒情報の発表

◆被害の発生・異常現象

- 〇〇地点で浸水開始
- 〇〇地点で水がしみ出す

※1 比較的小規模の河川や天井川等においては、急激に水位が上がる場合がありますので、水位や上流域での降水量に注意が必要です。

※2 河川や水路の合流箇所に樋門が設置されている場合、合流先の水位が上昇した際には、樋門が閉鎖されポンプで排水されることがありますが、様々な原因により、地域で浸水が発生する場合がありますので、注意が必要です。

◆STEP4：タイムライン案の完成

- ・無理な行動がないか等、行動の順序やタイミングを点検し、タイムラインを完成させます。
- ・時間帯によって、行動を変える必要があることに留意が必要です。
 - ※ 夜間は、状況の把握が難しく、住民の行動には危険が多いと考えられるため注意が必要です。例えば、指定緊急避難場所への避難が危険なことが考えられますので、基本的には、屋内のより高い階への避難を呼びかけるようにしましょう。
- ・内容によっては行政機関との調整が必要になることがあります。

<見直し例>

- ・スイッチにより避難を開始したときには、市町村は指定避難場所を開設していない

⇒ 地域の自主的な避難場所を決めて避難を行う、市町村と調整し住民自身が避難場所を開設することとする 等を検討

◆STEP5：災害・避難カードの作成、配布

- ・検討したスイッチを参考にして、災害・避難カードを作成しましょう。作成した災害・避難カードを地域住民の方へ配布することにより、タイムラインの要点を周知することが出来ます。

<災害・避難カードの例>

災害	避難先・場所	避難の合図(スイッチ)	※ 他の合図(スイッチ)の例
「〇〇川」の氾濫	A小学校	・〇〇地点で浸水開始	<ul style="list-style-type: none"> ・避難勧告の発令 ・「〇〇雨量観測所」で時間雨量〇〇mmまたは累加雨量〇〇〇mm ・「〇〇川」「〇〇観測所」の水位が〇mに到達 ・「〇〇川」の「〇〇河川カメラ」で水位上昇 ・「〇〇川」の樋門が閉鎖 ・〇〇地点で〇〇が浸水開始
土砂災害	B公民館	・〇〇地点で水がしみ出す	

第3章 タイムライン作成・活用のために必要な取組

(1) 避難先の確認

住民一人ひとりが、事前に、災害の想定に応じた避難先を決めておくことで、速やかな行動につながります。災害時における避難は、指定緊急避難場所や安全な場所への避難が基本となります。

しかしながら、夜間の場合や、雨が激しく降っていたり、道路冠水や浸水が発生している等、外出することが危険な場合には、屋内での安全確保（※）を行うことが原則となります。

なお、避難が「空振り」となる可能性もありますが、被害が何もなければ「幸運だった」と心得ましょう。

※ 「屋内での安全確保」とは、建物内での、より安全な部屋等への移動のことです。
(例) 洪水の場合：屋内の、高い階への避難
土砂災害の場合：屋内の、山から離れた高い階への避難

<参考：避難情報に応じて求められる避難行動>

避難情報	発令時の状況	取るべき行動
避難準備・高齢者等避難開始	避難勧告や避難指示（緊急）を発令することが予想される場合	<ul style="list-style-type: none">避難に時間を要する人（ご高齢の方、障害のある方、乳幼児をお連れの方等）は避難を開始しましょう。いつでも避難ができるよう準備をしましょう。身の危険を感じる人は、避難を開始しましょう。
避難勧告	災害による被害が予想され、人的被害が発生する可能性が高まった場合	<ul style="list-style-type: none">避難場所へ避難をしましょう。地下空間にいる人は、速やかに安全な場所に避難をしましょう。
避難指示（緊急）	災害が発生するなど状況がさらに悪化し、人的被害の危険性が非常に高まった場合	<ul style="list-style-type: none">まだ避難していない場合は、直ちにその場から避難をしましょう。外出することでかえって命に危険が及ぶような状況では、自宅内のより安全な場所に避難をしましょう。

(内閣府ホームページ：http://www.bousai.go.jp/oukyu/hinankankoku/hinanjumbijoho/index.htmlから作成)

※ 避難情報が発令されていなかったり、避難情報の対象区域外であっても、スイッチの状況が発生したり、危険を感じたら、自発的かつ速やかに避難を開始して下さい。

(2) 情報の収集先の確認

警報・注意報、雨量や水位に関する情報を、自ら収集することで、早めの行動が可能となります。特に、活用することが有用と思われる情報についてお示ししますので、事前に確認しておいて下さい。

目的	活用する情報	収集方法						
		きょうと危機管理WEB	テレビ・ラジオ	京都府防災・防犯情報メール	気象庁ホームページ	NHKデータ放送(dボタン)	住民による監視・連絡	市町村
大雨の危険性を調べる	大雨注意報、警報等	○	○	○	○	○		
	観測雨量(雨量観測所)	○		△		△		
洪水の危険性を調べる	洪水注意報、警報	○	○	○	○	○		
	洪水警報の危険度分布				○			
	指定河川洪水予報	○	○	○	○			
	水位情報(水位周知河川)	○	○					
	観測水位(水位観測所)	○		△		△		
	河川カメラ映像	○				△		
	地域の状況(※)						○	
土砂災害の危険性を調べる	大雨警報(土砂災害)	○	○	○	○	○		
	土砂災害警戒情報	○	○	○	○	○		
	地域の状況(※)						○	
避難勧告等の避難情報を調べる	避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示(緊急)	○	○	○		○		○

△:情報のうち一部のみ入手可能

※ 地域の状況:地域における降雨状況や冠水状況、被害等

<参照先(URL)>

きょうと危機管理WEB	http://www.pref.kyoto.jp/kikiweb/
京都府河川防災情報	http://chisuibousai.pref.kyoto.jp/index.html
京都府土砂災害警戒情報	http://d-keikai.pref.kyoto.jp/Top.aspx
京都府防災・防犯情報メール(事前に登録が必要)	http://www.pref.kyoto.jp/kikikanri/1183966762475.html ※登録方法: anzen@k-anshin.pref.kyoto.jp へ空メールを送信
気象庁ホームページ	http://www.jma.go.jp/jp/warm/333.html

(3) 対応の手順の検討

タイムラインに記載した行動の手順について、自主防災組織内で、事前に検討し、地域の住民と共有しておくことで、迷わず速やかな行動につながります。

(例)・連絡網を整備する。

- ・避難の手順や、役割分担を決めておく。

(集会所等に集合して避難する、声をかける相手を決める等)

- ・会長や班長が、不在にしている場合の代行順位を決めておく。
- ・避難に要する時間(準備・移動にかかる時間)を、実際に緊急避難場所まで歩いて確認しておく。

(4) 関係機関等との連携

避難の呼びかけや避難誘導等の対応を、自主防災組織だけではなく、関係機関等と連携を図って行うことで、よりスムーズな対応につながります。情報共有や、避難誘導を分担して行う等、事前に調整してみましょう。

<連携の例>

連携相手	連携内容
市町村	情報共有
消防団	安否確認、避難誘導
社会福祉協議会、民生児童委員	要配慮者への対応、避難に係る情報共有

4章 タイムライン導入後の取組

(1) タイムラインを活用した訓練

タイムラインを活用した訓練を定期的に行い、手順を見直したり、行動にかかる時間の短縮を図る取組が重要です。例えば、年に1回、地域の防災関係者でタイムラインを活用した訓練を行い、行動の手順を確認しておきましょう。

(2) タイムライン運用のふりかえりや見直し

タイムラインは、実際の運用を踏まえて見直しを行うことも重要です。最も雨が激しい時間帯に、避難場所への移動が行われていることもあり得ます。例えば、近隣で被害が発生したような激しい豪雨の際には、地域の関係者が集まって、タイムラインの運用結果についてふり返しを行い、必要に応じて見直しましょう。